

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町65
電話 03(5228)3171 FAX 03(5228)3175
発行者 総主事 司祭 三鍋 裕

シンガポールでのCCEA総会

管区事務所総主事 司祭 ローレンス 三鍋 裕

あの暑い夏がやっと終わったと思ったら、今度はシンガポール、赤道直下の酷暑に逆戻りでした。CCEA(東アジア聖公会協議会)の総会です。中村主教さま、八幡宣教主事、青年代表の松山健作兄とご一緒でしたから気が楽でしたが。

シンガポールの街も行く度に豊かで安全な町に変わってきました。それは結構なのですが、議会で野党が2人だけという実質の一党独裁、開発独裁型国家と言われ、万事開発が優先されている感じがします。政権批判は禁止、NGO「国境なき記者団」の調査によれば、先進国には珍しく報道規制が厳しいらしい。しかし、統治しにくい国であることも確かでしょう。国民は中国系76%、マレー系14%、インド系8%、そのほかが2%。それぞれが仏教、道教、イスラーム、ヒンドゥーに分かれますし、キリスト教徒もいます。キリスト教徒は数は多くはないけれども、イギリスの植民地時代に教会系の学校で教育を受けた人が多く、キリスト教には好意的だそうです。

シンガポール社会では宗教によって、豚を食べないけれども牛を食べるグループ、その反対のグループ、いろいろです。分からないときには鶏を出せと言われます。言語も英語、中国語(主に北京語)、マレー語、タミール語に分かれます。あまり宗教対立による紛争を聞かないのは、上手に住み分け、上手に共存するようにコントロールされているのでしょう。中国人街もアラブストリートもテーマパークのように小綺麗に整備されていますから。都市計画を含めて「力」による管理を感じるのです。

日常生活も管理されます。Fine and Fine(罰金によって清潔さが保たれている)あるいはFine Cityと言われるくらい。路上のごみ、ツバ、そして路上喫煙なんて以ての外で、高額な罰金を食らいます。ガムは国内持ち込みそのものが禁止。禁煙の奨励はわかりますが、タバコ1箱約千円、禁煙ガムもだめとあってはきついでしょね。幸い私はしばらく休煙中で助かりました。どうやって調べるのか、トイレの水の流し忘れも罰金。麻薬で捕まれば、情状にもよるでしょうが死刑。それも判決後1

会議・プログラム等予定

(前回報告以降追加
および10月25日以降)

- 9月
26日(水)正義と平和・憲法プロジェクト作業会
- 10月
2日(火)正義と平和・憲法プロジェクト作業会
12日(金)法規委員会
18日(木)主事会議
24日(水)祈祷書等検査委員会
24日(水)~26日(金)主教会(青森)
29日(月)~30日(火)文書保管委員会・作業会
- 11月
5日(月)聖公会/ローマカトリック教会合同委員会
5日(月)渉外主査会
8日(木)教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会
8日(木)主事会議
11日(日)青年委員会
12日(月)財政主査会
14日(水)聖公会/ルーテル教会協議会(ルーテル市谷センター)
19日(月)~20日(火)文書保管委員会・作業会
20日(火)ウィリアムズ主教記念基金運営委員小委員会(立教)
27日(火)礼拝委員会
27日(火)~28日(水)礼拝委ガイドブック編纂委員会
28日(水)常議員会
29日(木)人権担当者会
- 12月
3日(月)文書保管委員翻訳作業会
4日(火)ウィリアムズ主教記念基金運営委員会(立教)
5日(水)年金の将来を検討する特別委員会
8日(土)各教区財政担当者連絡協議会
- <関係諸団体会議等>
- 10月
29日(月)~31日(水)日本キリスト教連合法人事務会計実務研修会

(次頁へ続く)

週間で執行とか。繁栄と秩序のためとはいえ、罰則ばかりで人間を規制するとしたら、本当の意味の繁栄と秩序が成熟するのか心配な気がします。少数の不心得者には我慢してもらいましょうということでしょうが、不心得者だけではないようです。車椅子のマークのついたトイレはあってもスロープは少ない。全部が同じではないかも知れませんが、エスカレーターのスピードの速いこと。転びそうです。歩行者横断用の青信号はヨーイ・ドンで渡らなければいけないくらい短い。この長さでは車椅子どころか、お年寄りも大変です。少数であってもスピードについていけない人がいるはずなのに、効率優先だけで良いのでしょうか。植民地時代に自動車が威張っていた名残かもしれません。全体の利益という名で、弱い立場の人を押しつけることがあってはなりません。よそのお国のことではなく日本でも心したいと思います。

CCEA総会のご報告はあまりないではないかと叱られそうですが、今回は無理に意見を集約しようという動きもなく、交わりを深めることに重点がおかれました。学び合いのときです。中村主教は礼拝の中で日本の殉教者とキリシタンの歴史について話され、一同に深い感銘を与えられました。韓国の代表が冗談なのか真面目なのか言っていました、「私の国では祈るときは頭を垂れて真剣な顔で祈るのですが、シンガポール人は空を見上げて楽しそうに祈るのですね」と。カリスマティック・ムーヴメントというのですが、確かに楽しそうに祈っていました。私たちは食べ過ぎないように気をつけますが、貧しいお国からの人たちは「こんなにすばらしいに馳走があるのに、どうしてもっと食べないの」と言います。ミャンマーの主教さま、物静かな紳士ですが、一度いらっしゃいと言っておられました。貧しい地域なのは承知していますが、そのことには触れず

(前頁より)

11月

2日(金)NCC常任常議員会

13日(火)~20日(火)北朝鮮訪問及びピース・フォーラム

28日(水)聖公会生野センター理事会

に、もっと知り合おうよと。日本のことも知っていたきたいと思うお方との出会いでした。私たちも行政の誘導でもなく罰金の心配からでもなく、同じアジアのお仲間としてもう少し心を配り合いたいものですね。

シンガポール教区の学校、病院や施設もご案内いただきました。知的障がいを持つ人の訓練センターとリハビリセンターは特に信頼を集めているそうです。急速に経済発展を進めている中で、置き去りにされがちなこのような働きをシンガポール教区が担っているのは偶然とは思えないのです。また、この教区はラオスやベトナムにも働き人を送っているそうです。政治とのかかわりで難しいこともあるそうですが。

さて最後にご報告ですが、先月号で書きましたホンコンの祈禱書の聖霊の交わりが、聖霊的團契なのか聖霊の感動なのかというこだわりですが、シンガポール教区では聖霊的感動となっています。実は分からない説教の間に祈禱書をパラパラやって見つけました。聖霊の働きに感動するのか、聖霊の助けによって神さまのみ業に感動させられるかという点は、これからも続く黙想のテーマですが、今回与えられた色々な出会いが聖霊的團契の始まりであり、その中に聖霊的感動も味わうことが出来ますようにと願っています。

主事会議

第56(定期)総会期第13回 10月18日(木)

1. 総主事宅の短・中期改修計画について
建築会社より提案のあった総主事宅の短・

中期改修計画(概算見積もり)を受けて、来年度から実行していくこととした。

2. 社会事業の日信施奉献先を決定
次回以降の会議 11月8日(木)

各教区

北海道

- ・第66(定期)教区会 11月22日(木)17時半～23日(金)16時 主教座聖堂札幌キリスト教会

東北

- ・第87(定期)教区会 11月22日(木)18時～23日(金)16時 東北教区主教座聖堂並びに教区会館

北関東

- ・第74(定期)教区会 11月23日(金)10時半～17時 志木聖母教会

東京

- ・エルサレム教区ボランティア訪問報告会 11月10日(土)14時～17時 東京教区会館3階
- ・第105(定期)教区会 11月23日(金)9時～15時 聖アンデレ主教座聖堂、聖アンデレホール

横浜

- ・第66(定期)教区会 11月22日(木)18時～23日(金)16時 横浜聖アンデレ主教座聖堂および会館

中部

- ・第78(定期)教区会 11月23日(金)9時～16時 主教座聖堂名古屋聖マタイ教会

京都

- ・第101(定期)教区会 11月23日(金)9時～17時 京都教区主教座聖堂、教区センター会議室

大阪

- ・第96(臨時)教区会 教区主教選挙 9月23日(日) 大阪教区主教座聖堂 2名の候補者が推薦され39回の投票が行われたが、当選者は得られなかった。
- ・第97(定期)教区会 11月23日(金)9時～17時 大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)

神戸

- ・第75(定期)教区会 11月23日(金)8時～17時 神戸聖ミカエル大聖堂(神戸教区主教座聖堂)

九州

- ・第99(定期)教区会 11月22日(木)16時～23日(金)15時 九州教区主教座聖堂および教区センター

沖縄

- ・第49(定期)教区会 11月22日(木)18時～23日(金)15時 沖縄教区センターベッテルハイムホール

神学校

ウイリアムス神学館

- ・ウイリアムス祭2007 11月3日(土)13時 講演会「教会と福音」: 本田哲郎神父(フランススコ会) オープンハウス 唱詠夕の礼拝

聖公会神学院

- ・2008年度入学試験 試験期間: 2008年2月7日～9日 試験内容: 聖書・英語・小論文・グループ面談・個人面接 願書締切: 2008年1月31日 受験料50,000円(宿泊・食費等含む)

† 逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

吉田 照子(神戸教区・元伝道師) 2007年9月20日(月)逝去(97歳)

『み言葉の礼拝』訂正箇所について

『み言葉の礼拝』2006年11月26日発行の第1刷に以下の誤りがありました。第1刷をお持ちの方は、お手数ですが訂正してご使用ください。

式文4ページ、マリヤの賛歌 1行目

(誤) わたしの靈は救い主なる神を

(正) わたしの靈は救い主である神を

《人 事》

東北教区

イリナ佐藤文香 2007年9月25日付 日本聖公会聖職候補生に認可する。

東京教区

執事 ケビン・シーバー 2007年10月1日付 聖路加国際病院、聖路加看護大学および
聖ルカ礼拝堂チャプレン補佐任命

< 信徒奉事者認可および分餐奉仕許可 >

2007年9月11日付 2008年3月まで

(練馬聖ガブリエル教会) 足立暁代、伊藤友久、平野静子、小泉芳久、下泉さやか

横浜教区

司祭 ヤコブ三原一男 2007年9月18日付 浦安伝道所(9月18日設立認可)管理牧師に任命する。

聖職候補生 ペテロ松田 浩 2007年9月18日付 市川聖マリヤ教会、および浦安伝道所管理牧師司祭三原一男のもとで勤務することを命じる。

聖職候補生 バルナバ吉川智之 2007年9月18日付 厚木聖ヨハネ教会管理牧師司祭パウロ小林進のもとで勤務することを命じる。

京都教区

聖職候補生 ヨブ加納嘉人 2007年9月8日 執事に按手される。

執事 ヨブ加納嘉人 2007年9月8日付 上野聖ヨハネ教会牧師補に任命する。

聖職候補生 アグネス三浦恵子 2007年9月8日 執事に按手される

執事 アグネス三浦恵子 2007年9月8日付 京都復活教会牧師補に任命する。

九州教区

司祭 ヨハネ後藤 光 2007年9月12日付 直方キリスト教会管理牧師の任を解く。

2007年9月13日付 直方キリスト教会牧師に任命する。(宗像聖パウロ教会牧師兼任。住居は宗像聖パウロ教会)

司祭 マルコ柴本孝夫 2007年9月13日付 学校法人筑豊聖公学園直方セントポール幼稚園チャプレンに任命する。

《教会・施設》

美唄聖アンデレ教会(北海道)電話番号変更 0126-63-3136(正岡辰郎兄宅)

浦安伝道所(横浜) 2007年9月18日 伝道所の設立を認可する。

住所 千葉県浦安市今川1丁目2番56号



📖 出版物案内

・『2008年度 教会暦・日課表』

2007年10月15日発行 価300円(税込)

コンウォール・リー女史の胸像除幕式

北関東教区 司祭 斎藤 英樹

2年ほど前、草津町の町民の有志によって「コンウォール・リー女史顕彰会」が結成されました。顕彰会は、リー女史を顕彰すべき様々な思いがありましたが、まず、バルナバミッションによって捧げられた「頌徳公園（現バルナバ教会裏）を整備し、そこにリー女史の胸像を建立することになりました。

会長の荻原氏が教区常置委員会を訪ねてくださりその趣旨をご説明くださいました。教区も全面的に協力することに致しました。除幕式はリー女史生誕150周年、来日100周年記念として2007年10月10日に行われました。顕彰会はこの日を記念し、中村茂氏監修による「コンウォール・リー女史物語」という写真集を発行し、バルナバミッションとリー女史のハンセン氏病患者への奉仕を報告しています。

北関東教区ではこの式典に先立ち、国立療養所栗生楽泉園内にある草津聖慰主教会において記念聖餐式を行い教区内外から70人を超える方々の出席を頂き、女史の活動、そしてそ

の生き方を支えた信仰に思いをはせました。

また、草津町役場において「草津のマザーコンウォール・リー女史とバルナバミッション展」を10月6日から10日まで開きました。これは教区内ボランティアによって整理保存されたリー女史の遺品及びバルナバミッションの活動を世に知らしめるための展覧会でした。リー女史は、水彩画が大変お上手で、多くの作品を残していらっしゃいます。それらの作品、また女史の関東、草津での活動の写真展、バルナバミッションの働きなどを紹介するものでした。この展覧会には延べ180人ほどの方が来場され、地元の上毛新聞にも取り上げられました。そのために、一般の方でリー女史のスケッチブックをお持ちの方がいらっしゃり、寄贈を受けるハブニングもありました。

北関東教区では、バルナバミッション及びリー女史の働きを後世に伝えるべく遺品の整理を続け、保存のための保存庫、そして簡単な展示ができるような建物を造りたいと考え、募金を開始したところです。来年はこの展示を教区内数カ所で開き教区内信徒及び一般の方々に広くバルナバミッションとリー女史の働きを知っていただきたいと計画中です。



コンウォール・リー女史の胸像



コンウォール・リー女史とバルナバミッション展

アジア学院(ARI)主催 スリランカ・スタディツアー 参加報告

渉外主事 八幡 眞也

スリランカ出身アジア学院(以下ARI)卒業生の現地に於ける活動状況の学習と視察、また、スリランカの国状況把握と学習、津波被災者の復興状況の確認等を目的として、ARI主催のスリランカ・スタディツアーに同行した。ARIと日本聖公会の関係は管区としての支援のほか、信徒個人、教会、また教区単位での支援など多くの関わりがある。そのようなARIの活動をより良く理解するために、このスタディツアーに参加することにした。

スリランカ出身のARI卒業生はこれまでに73名おり、多数がNGO団体で活躍している。その実際の現場(農村や都市部のスラム化しつつあるところ)を見学し、活躍状況を確認した。訪問先は個人では訪問出来ないような所も多かった。ハットンでは茶葉を摘む事を主たる生計としている山間部(標高1000メートル位に位置する所)の農村を訪問した。経済的・社会構造上恵まれていない人たちと顔を合わせ、またその様な厳しい状況にあって、卒業生たちが村全体の生活向上を目指して協力している現場を視察することが出来たことは、とても貴重な経験だった。

訪問期間

7月12日から23日まで。スリランカ出身のARI職員ラクシリ司祭が現地との調整を事前にしてきていたので、とても内容が濃いスタディツアーであった。

訪問先

スリランカ民主社会主義共和国のコロンボ、クルネーガラ、キャンディ、マータレ、ハットン、ゴールなどの町や村。宿泊は経費削減のためもあると思われるが、修道院や民宿のようなところを利用した。全てミニバンによる移動であったが、交通事情は悪くなかった。

参加者

引率責任者としてARI職員1名(女性)、現

地調整員・連絡員・引率者としてARI職員のラクシリ司祭(スリランカ聖公会聖職者)、米国聖公会派遣の長期ボランティア1名(女性)、米国から夏季短期ボランティア1名(女性)、ARI機械類の整備のボランティア1名(男性)、ARI植木その他のボランティア1名(男性)、小生、計7名であった。

現地の事情・人情・社会情勢

出来るだけ多くの現地の人と会話をするように努力したが、言葉の関係と実際に会う人の数に限界があり、また、出会った人たちが社会を平均的に代表しているか否かは分からない。この制限内で感じた事を述べてみたい。

今までに訪問したアジア諸国、パキスタン、ミャンマー、フィリピン等と比較すると、街の様子や人々の食事、表情などから察して、国の経済状況は上に位置すると感じられる。教育制度は進んでいて、5歳から14年間義務教育が続く。教育はほとんどが国立で、従って教育費は個人負担にならない。また医療費は全て国が負担。但し個人負担で医療を受けることも出来て、恐らくこの方がより良い治療を受ける事が出来るのであろう。識字率が97%以上と聞いたが、農村部ではそれ程高いとは思われなかった。

日本にはとても友好的で、日本からのODAなどの支援はスリランカが受ける支援全体の2分の1だそう。実際コロンボ大学やコロンボにある病院は日本の支援によって設立されたものである。しかしこの事実は国民のほとんどが知らされていないと日本に友好的な人が嘆いていた。また、現政府の腐敗を嘆く人(以前教職に就いていた人物)は、日本の支援金が100%有効に使われておらず、私欲のために使われていると訴えていた。しかしこの様に自由に発言することが出来る事は自由が許されている事の証拠であり、その点は健全である。

一般に人々は他所から来た人に対して歓迎の

意思を強く示す様で、何処を訪問しても最初はお茶とお菓子・果物で歓迎してくれた。ある所ではその上にダンスや音楽でも歓迎が続いた。そのような豪華な歓迎に疑問を感じたのだが、聞くところによると、通常はお茶のみだが、我々の訪問が特別なのでこの様に豪華なものになったとのことであった。時間に関してはとてもおおらかで、分刻みで生活を送っている日本人にとっては耐え難い事がしばしばある。

スリランカは人種の対立でシンハラ人(政府側)とタミール人の対立と闘争で日常生活の上でも危険がある様な報道がなされていると思う。勿論紛争のある地域を訪れなかった事もあるが、実際に訪問してみて、安全面で問題を感じた事は全くなかった。対立は政府側とごく限られた少数のタミール人との間のものであり、一般市民にはあまり関係ないと思われる。実際シンハラ人とタミール人が問題なく共同生活を送っている村がある事を確認している。

訪問先

ARI 卒業生が活動しているNGOを8箇所訪問して活動の概況を聞き、18箇所の現場を見学した。スリランカにはNGOが活躍出来る土壤が育っている様で、政府の援助を受けている団体、資金的には独立で外部援助を受けていない団体、教会やその他の援助を積極的に受けている団体等、様々なパターンがある。

具体的な支援方法は異なっているが、ほぼ全てのNGOに共通している事は、経済的或いは社会構造的に恵まれていない地域の人々に対して、地域開発・生活レベルの向上・経済的自立等を目的に地域の自発的な問題提起と解決を促しつつ、実際には経済的な援助をしたり活動を指導する。決して金銭的な支援をするだけの所謂慈善運動ではなく、問題解決と解決した状況を持続する事に重きを置いている。従って改善が軌道に乗ればNGOは手を引き、住民のみ力で持続できる。

具体的には、有機農業による食料の自給を積極的に導入したり、地域社会のリーダーの教育・育成に携わり、ARIでの経験を最大限活用

している。また、お金の管理の概念を一般に持っていないので、家計に限らず家内工業や小売店営業を始める際に必要な資金の調達方法や収入の管理方法なども指導している。卒業生に共通している事はARIにおける多民族・多宗教・多文化の環境で生活した事が強力なリーダーの育成に非常に役立ったという事である。勿論ARI研修中に学んだ「生活ごみから作るコンポストの作り方」や、「有機栽培を基本とした小規模農業の実践」などが役立つ事も多々ある様だ。

訪問した現場は「個人経営のろうけつ染め工場」、「木彫り製作所」、「製材所」、「焼物の窯元」、「農業協同組合」、「茶摘農村」、「革製品製作所」、「スラム地域の再開発現場」、等であった。

訪問先の一例:茶摘農家の状況

山岳地域のハットンでは茶摘農家を訪問した。スリランカは紅茶生産が大きな国の現金収入源であるが、紅茶の栽培は国営か民営会社が全てコントロールしている。茶摘農家はこのような会社に雇われていて、ただ茶葉を摘む事だけで生計を立てている。住居は与えられてはいるが土地は農家が所有しているのではない。単に摘んだ茶葉の量に応じて賃金を貰うだけでこの仕事は女性、主に主婦の仕事で、夫は紅茶製造工場で働くか、その他の仕事に就く、その収入は家族を養うには十分ではなく、また、季節要因もあり安定した収入ではない。

このような状況にある人々の生活向上のために家計管理の指導や、会社所有の土地の使用を許されている所では家庭菜園を指導して自給するだけでなく農作物を外部へ販売して家計の足しにする事などを指導している。

家庭菜園をしている場所は彼らの家から更に山間部に入り込んだ所であって、水流が直ぐそばにはあるが菜園まで引き込みをしなければならぬ。山間部を畑にするために大きな岩を取り除き平地にする努力は大変なものであったと想像できる。現地の人たちは慣れていであろうが、水流に「ヒル」に咬まれながらの訪問であった。

津波被災者支援のその後

被災支援の状況は当時津波が到達した地点でもっとも北部にあるゴールという町までしか行けなかったために(スリランカ島のもっと東側が激しい被害を受けた)確認は困難であったが、未だに床のコンクリートだけしか残っていない家が数箇所あった。現地状況を見ると高波や津波に対してはほぼ無防備である事が分かる。鉄道は海岸線ぎりぎりに設置されているし、今は漁村に家屋がほとんど見られないが、やはり海岸線ぎりぎりに建っていたのであろう。

被災者支援活動は2年経過して少しずつ進んでいる様である。災害直後は各国のNGOが多々参加して大混乱を起こしていたと話す支援関係者がいた。また、政府も宗教団体も殊にキリスト教関連の組織は災害支援等の訓練を受けていないために当初は義援金が沢山集まったにも拘わらず直ぐに活動に結び付けられなかったという事もあったようだ。

訪問の感想

スリランカ出身のARI卒業生は73名でかなり

多いと思われる。ARIでの研修が始まったのは30年近く前で、当時20歳くらいで研修を受け、帰国後その組織の中心人物に育った人や、すでに組織の中心で活動していた立場から研修に参加し帰国後その組織で更に活躍している人等がいる。若く何でも吸収できる時期に研修を受けるのが良いか、自分の立場が確立して何を学んだらよいか良く理解した人が研修を受けるのが良いか、という事が複数の卒業生の集まりで議論されたが、ケースバイケースであらう。

ARIで研修した事が実践で直接役立っている人もいるが、ARIの生活でリーダーシップを学んだ事が一番役立っているという声をもっとも大きかったようだ。ARI設立当初と比較し、世界情勢は大きく変化したと思う。設立の精神を見直して受け継ぐところは継続し、見直すところは変えてゆき、アジア・アフリカ地域の発展のためにARIが役立つ事業を継続してほしいと願う。

* * *

アジア学院ホームページ:

<http://www.ari-edu.org/>

